

櫛

けやき

小牧幼稚園 園だより 第379号 2022年12月
教育目標「神を敬い 人を愛し 平和を作り出す子どもを」
年主題「つながって」～今、わたしを生きる～
年聖句「主がすべての災いを遠ざけて あなたを見守り
あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも
帰るのも 主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。」

詩編121：7-8

2022年のクリスマスを迎える季節となりました。今年は、イブが土曜日、イエスさまの誕生日であるクリスマス当日が日曜日という喜ばしい日程です。今年の教会のデコレーションは「クリスマスの贈り物」というテーマで、特にLEDは4000球を超える飾りとなっています。こどもたちのページェントに博士たちが、黄金・乳香・没薬をもってイエスさまのところにやってくるシーンがありますが、私たちに神さまからくださった贈り物は「イエスさま」で、その誕生を喜ぶわたしたちをLEDやデコレーションで表現しました。

私たちにとって贈り物というのは、とても嬉しいものです。しかし、それが私たちにとってすぐに役に立つかどうかで判断してしまいがちなのも現実です。私たちは様々なことが便利になり過ぎた余り、本当に大切なものを見失ってしまうことがあります。先日、たまには携帯電話のナビ機能を使わずに歩いてみようと思い、ふらふらと景色を楽しみながら目的の場所へ向かいました。そうしたら、こんなところにこんなものがあつた。こんな景色を見ることができると、いろいろな気づきがありました。それは、ひょっとしたら、神さまからの贈り物なのかもしれないと思いました。

イエスさまがお生まれになった出来事であるクリスマス。神さまが、何のために、イエスさまを私たちに贈ってくださったのかを、贈り物を通して見つめてみたいと思います。そして他にもたくさんの贈り物をくださっていることを信じて、新しい年に向かって歩みたいと願います。

2022年のクリスマス。教会は、3600球を超えるLEDをまとうツリーや様々なデコレーションが、皆さまをクリスマスの恵みへ誘ってくれます。お一人お一人に、あたたかい気持ち、優しい心を与えてくださるイエスさまの誕生の出来事を一緒にお祝いすることができたら幸いに思います。

幼稚園に連なるお一人お一人の上に、神さまからのクリスマスの恵みと祝福が豊かにありますように、心よりお祈りします。クリスマスのひと時と新しい年2023年が皆さまにとって素晴らしい時でありますように。メリークリスマス！

小牧教会 牧師 田中 郷史

☆小牧キリスト教会では、クリスマス夕礼拝が12月24日(金)午後4時30分からクリスマス礼拝が12月25日(日)午前10時30分から、行われます。幼稚園隣の教会です。どなたでも参加できますので、ぜひご出席ください。

☆教会においでの方は、幼稚園の園庭に駐車できます。教会には北側（塚原外科内科側）からお入りください。

1月の給食メニュー

1月12日（木）	お雑煮風けんちん汁	おいもご飯	果物
13日（金）	五目きしめん		果物
17日（火）	デニシュパン	ソーセージ	果物
19日（木）	クリームシチュー	ご飯	果物
20日（金）	焼きそば		果物
24日（火）	ワッフル	鶏の唐揚げ	果物
26日（木）	カレーライス		果物
27日（金）	ひじきご飯		果物
31日（火）	デニシュパン	ソーセージ	果物

*食材都合により、変更もあります。

*1月5日は、餅つきをいたします。力自慢のお父さん、おじいちゃんお手伝いをお願いします。

☆今年の秋は、全国的に柿が豊作だったと聞いています。私の家にも、30年ほど前に植えた柿の木があります。この数年は、あまり元気がなく、実ることがあまりなく私と同じように、老木になり朽ちていくのかと心配していましたが、今年は豊作で収穫が出来ました。只、給食で頂くように美味しくはなく、やはり普段から農家の人の様に手をかけないと美味しくは育たないことが解りました。

以前にも、お伝えしたかと思いますが、この季節、田舎の方に行くと、青空に熟した赤い柿がぽつんと一つ残っているのを見たことがありますか？柿には、収穫の時すべての実を採ってしまわず木の先端の方に少しだけ残して置く風習があるそうです。それが「木守り柿」です。木守り柿には、冬の小鳥たちへの恵み、来年の豊作を祈るため、神にささげるためなど、様々な理由が伝えられます。残された柿が、直接木を見守るわけでないですが、鳥たちへの思いやりが長い目で見れば自然を潤すことになるのでしょう。私の小さな庭にも、数本の木を植えていますが、季節により、色々な鳥が遊びに来てくれます。柿の実がないときは、ミカンやヒマワリの種を置いています。孫が遊ぶに来た時には、鳥を見て楽しめますが、つい、大きな声を出し飛んで行ってしまいます。鳥を見るだけで、少しでも自然を身近に思えればと願っています。

昔から伝わる風習、昔の人々の思い、柿ひとつにも、人々の優しさと自然への畏敬の念を感じます。

今年一年も様々なことがありましたが、イエス様の誕生をお祝いするとともに、来年こそは、人間同士、助け合えるよう、みんなが優しさを取り戻し、争いのない世界が来るよう願っています。世界中の子どもに幸せが来るように、祈ります。